

小児科

1. 特色

- 1)千葉県南部の基幹小児科として、救命救急センター・NICU・ヘリポートを併設し、24時間当直体制で小児の高度・3次救急医療を行っている。
- 2)電子カルテを駆使した地域医療ネットワークの厚労省モデル病院に指定されている。
- 3)小児病棟(38床)：重症管理室を併設し、小児科全般の疾患に対応するとともに、外科領域の入院患者の全身管理にも携わる。
- 4)原則として完全看護。病棟には3人の保母が勤務しており、日常の介護に加えて四季折々の行事や運動会を企画している。
- 5)病棟での面会時間に制限はなく、24時間面会可能である。入院学童のために院内学級の制度もある。
- 6)厚生労働省の補助を受けた、慢性疾患患者家族の宿泊施設「ハレオハナ」を持つ。
- 7)外来棟は患者・家族のアメニティーに配慮した仕様・設備を整えている。

2. 目標

- 1)スタッフの多くが東京大学小児科医局員であり、大学との連携により更なる高度先進医療を展開していく。
- 2)地域・行政との連携により、院内診療のみならず、在宅医療・検診・健康講話などを通し、地域の保健・療育・教育活動に積極的に参加していく。
- 3)日本小児科学会認定の臨床研修病院として若手研修医の指導を充実させ、小児医療に理解を持つ人材を育成する。
- 4)学会活動・国際的研修機関への出張を励行する。

3. スタッフ(常勤11名、非常勤7名)

小太刀康夫(部長、亀田総合病院:小児呼吸器)：1994年群馬大学卒業、1994年東京大学小児科入局、東京大学附属病院、都立府中病院、千葉県こども病院、国立小児病院等勤務、2004年4月より現職。

日本小児科学会専門医。

河村誠次(部長、亀田クリニック:小児循環器、新生児)：1987年北里大学卒業、1987年北里大学小児科入局、北里大学附属病院、国立循環器病センター等勤務、1995年4月より現職。日本小児科学会専門医。

上原貴博(部長、小児血液・免疫担当)：1987年金沢大学卒業、1987年金沢大学小児科入局、金沢大学医学部附属病院、黒部市民病院、国立療養所富山病院等勤務、2005年4月より現職。日本小児科学会専門医。

高梨潤一(部長、小児神経担当)：1988年千葉大学卒業、1988年千葉大学小児科入局、千葉大学附属病院、千葉県リハビリテーションセンター等勤務、カルフォルニア大学サンフランシスコ校留学、2005年4月より現職。日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門員・評議員。

楠本欽史(医員、小児一般)：北海道大学卒業

伊藤直香(医員、小児一般)：群馬大学卒業

小宮山馨(医員、小児一般)：新潟大学卒業

鈴木久美子(医員、小児一般)：浜松医科大学卒業

高橋長久(医員、小児一般)：東京大学卒業、シニアレジデント

吉崎加奈子(小児一般)：徳島大学卒業

納口鹿子(小児一般)：滋賀医科大学卒業

非常勤：大学小児科医局等から小児神経 3 名、小児循環器 1 名、小児腎臓 1 名、アレルギー 1 名、発達・心理 1 名

ジュニアレジデント：1～3 名配属(1～2 ヶ月間ローテーション)

家庭医養成コースレジデント：1～2 名配属(1～2 ヶ月間ローテーション)

4. 診療内容

1) 外来診療：亀田クリニック(予約制)

	月	火	水	木	金	土
午前 一般外来	各医師	小宮山	河村	上原	楠本	河村
	高梨	上原	各医師	鈴木	高梨	伊藤
	鈴木	高橋(長)			小宮山	小太刀
午前 専門外来		アレルギー-外来		神経外来		神経外来
						発達外来
午後 一般外来	楠本 各医師	河村 伊藤	小太刀 上原	高橋(長) 楠本	各医師	上原 高梨
	午後 専門外来	NICU外来	アレルギー-外来	心臓外来	アレルギー-外来	
		血液外来	腎臓外来	NICU外来		発達外来
特殊外来		1ヶ月検診	予防接種	(在宅訪問)	乳児検診	トレッドミル

外来患者数：約 120 名/日

(一般 100 名、専門外来 20 名程度)

夜間救急患者：平均 20 名流行期 40～50 名

2) 入院診療

急性感染症などの一般小児科疾患をはじめ、小児科各専門領域の慢性疾患など多数。一般小児科で必須の疾患のほとんどを診療している。人工呼吸器管理などの集中治療を要する重症患者は年間約 10 名程度。看護師も受持ち制をとり、患者・家族と密なコミュニケーションを図り、継続性のある看護を目指している。

5. 学術関係

1) 学術集会

小太刀康夫、河村誠次 他：パルボウイルス B19 による aplastic crisis と心筋炎をきたした遺伝性球形赤血球症の 1 例第 108 回日本小児科学会学術集会 2005 年 4 月 22-24 日

豊泉 愛、小太刀康夫 他：蛋白細胞解離を認めた脊髄腫瘍の 1 例第 108 回日本小児科学会学術集会

2005年4月22-24日

高梨潤一、河野陽一 他：見かけ上の拡散係数(ADC)を用いた白質変成症の病態解析第47回日本小児神経学会総会 2005年5月19-21日

高梨潤一、池平博夫 他：高磁場 MRS を用いた小児中枢神経疾患の病態解析 2005年放医研研究会用MRI利用報告会 2005年5月26-27日

鈴木久美子、高梨潤一 他：両側多嚢胞腎の合併を認めた結節性硬化症の乳児例第171回日本小児科学会千葉地方会 2005年6月18日

前馬秀明、上原貴博 他：移植後肝障害におけるIL-8の動態第67回日本血液学会 2005年9月17-19日

小宮山馨、高梨潤一 他：MR spectroscopy-DWI が診断に有効であった髄芽腫の1例第43回日本小児神経学会関東地方会 2005年9月17日

鈴木久美子、小太刀康夫 他：多発性嚢胞腎を合併した結節性硬化症の2例第14回発達腎研究会 2005年9月17日

高梨潤一：「脳MRIを用いた脳炎脳症の病態解析、予後予測、治療法についての検討」「重症心身障害児者の病院・病態解明に関する研究班」17年度報告会 2005年11月22-23日

楠本欽史、小太刀康夫 他：反復性クループとして管理されていた先天性声門下狭窄の1例 第2回東京大学小児医学研究会 2006年1月22日

小宮山馨、高梨潤一 他：多発性脳内出血を呈した4ヶ月女児第11回小児神経症例検討会(蔵王セミナー) 2006年2月10-12日

高梨潤一、加藤光弘 他：けいれん重積型脳症におけるMRIの検討第35回神経放射線学会 2006年2月23-25日

高梨潤一：小児神経疾患におけるProton MRS 第18回臨床MR脳機能研究会 2006年3月4日

小宮山馨、高梨潤一 他：けいれん重積型脳症の1例：MR spectroscopyによる病態の考察第44回日本小児神経学会関東地方会 2006年3月11日

2)講演会

塚田日出樹：成長曲線からわかるいろいろな疾患君津、木更津、袖ヶ浦、富津4市合同養護教諭勉強会 2005年6月24日

塚田日出樹：食生活と生活習慣病生活習慣病セミナー2005年12月2日

3)論文・書籍

【和文】

小太刀康夫：気管支炎・肺炎小児疾患診療マニュアル中外医学社 2005-91-94

小太刀康夫：気胸小児疾患診療マニュアル中外医学社 2005-95-97

小太刀康夫：横隔神経麻痺小児疾患診療マニュアル中外医学社 2005-98-99

小太刀康夫：当直医師に必要な新生児の知識 - 喘鳴 - 小児科診療 69:356-361-2006

小太刀康夫：マイコプラズマ肺炎小児臨床検査ガイド文光堂 2006-368-370

高梨潤一：可逆性の脳梁病変を有する軽症脳炎脳症これでわかる拡散MRI 秀潤社 2005-96-297.

高梨潤一：意識状態とバイタルサイン小児内科 38:310-312-2006

【英文】

Takanashi J et al .: Cortical Liquefaction in Severe Human Herpesvirus 6 Encephalopathy
Neurology 2006;66:452-453

Takanashi J et al .: A neonate showing a reversible splenic lesion
Arch Neurol 2005; 62:1481-1482

Takanashi J et al .: Pituitary cysts in childhood evaluated on MR imaging
AJNR Am J Neuroradiol 2005; 26: 2144-2147

Takanashi J et al .: MRI confirming periventricular venous infarction in term-born child with congenital hemilegia
Dev Med Child Neurol 2005;47:706-708

6 . 教育内容

ジュニアレジデント 2 名 + 家庭医養成コースの研修医 1 名の計 3 名が、常時、1~2 ヶ月間ローテーションしている。レジデントの希望により 1 ヶ月~4 ヶ月までの研修をフルキシブルに可能にしている。研修期間内に小児の診察方法、common disease の診断・治療ができることを目標とする。

毎日、朝夕の病棟カンファレンス

週 1 回の医長回診

週 1 回の抄読会(英文)

週 1.2 回適宜、クルズス

症例検討会

7 . その他

保健所にて予防接種業務の委託、保健所にて一般健診・発達健診の委託、学校保健・健診の委託、リハビリテーション科とのカンファレンス、附属看護専門学校・助産婦学校の講義、小児の健康についての市民フォーラム、救命救急士を対象とした小児救急の講義、などを定期的に行っている。

文責：小太刀康夫